



鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第74号

2012年(平成24年)3月22日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
TEL 047-445-1141 (内550)
FAX 047-441-9400
http://www.kifa.gr.jp

変わる国際交流の在り方

—市、国際業務について考え方を整理—

鎌ヶ谷市国際交流協会(KIFA)は創設以来24年にわたって、鎌ヶ谷市における草の根国際交流の中核として、さまざまな事業・イベントを通じて、市内在住外国人らとの交流を図り、また支援事業などを行ってきました。これらはすべてボランティア・スタッフの努力によって、達成してきたものです。

市は平成21年度策定の「多文化共生推進計画」を進めるなかで、昨年、従来からの「国際交流(草の根交流)」事業を、「国際業務」という視点で、優先順位の整理を行いました。

KIFA創設の精神、さらに活動の根幹にも関わる部分もありますので、平成23年度の動きと今後の課題について、中間報告の形でお知らせします。(執行部)

◎現在の鎌ヶ谷市の国際化の状況は

平成22年度の市内外国人登録者数は約1200人。内訳はフィリピン、中国、韓国の人々で多数を占めています。

市では外国人住民が増加している状況を踏まえ、在住外国人に対応した一層の行政サービスが必要になると考えています。さらに後期基本計画のなかで「世界と結びつく国際化の推進」を掲げています。内容は、▽市民による国際交流が盛んに行われている▽国際平和の意識が高く、さまざまな分野で国際化への対応が行われている▽外国人にも暮らしやすい鎌ヶ谷市—というものです。

◎国際交流から多文化共生への経緯

市は在住外国人政策として、平成21年(2009年)に「多文化共生推進計画」を作成しました。平成21年度を初年度とし、平成26年度までの6年間をかけて完成させるというものです。主なポイントは①市民交流の推進②姉妹都市・ワカタネとの交流促進③在住外国人への学習機会の提供として拠点の整備—などとしています。これらの施策には、いずれもKIFAをその中核と位置付けていました。(KIFAPlaza第65号・平成21年9月29日発行に詳細掲載)

さらに昨年の6月、「鎌ヶ谷市国際交流団体連絡協議会」(仮称、以下協議会)構想(案)を打ち出し、「多文化共生センター」(平成26年予定)の設置に向けて動き出しました。説明によると、市内における各種団体の国際交流事業を把握し、意見を聞きながらより良い実施方法を検討していくものとしています。また、市内在住の外国人への施策の見直しを進める一方、これまでの「国際交流」(草の根交流)から、「国際業務」という視点で優先順位を整理し、昨年11月、KIFA運営委員会に提示しました。

これによると、市在住の外国人を住民(定住者)と捉え、行政サービス(福祉サービス等)に重点を置きなが

ら、市民のニーズも活かし、限られた財源をできるだけ有効に活用するため、事業の優先順位を整理しました。国際交流事業を3グループに分け、グループⅠは「行政・必須」として行政が行う通訳ボランティア関係、グループⅡは「行政・選択」でホームステイや外国人への日本語講座等があり、その他の事業は、グループⅢとして「民間主導」で実施してほしいものと示されました。

◎KIFAの諸活動への課題

これまでKIFAが行ってきた主な国際交流事業は▽交流バスツアー▽KIFAパーティー▽外国家庭料理講習会▽英会話サロン▽語学研修講座(英、中、韓、子ども英会話)▽国際事情講演会▽交流カフェなど、多岐にわたっています。これらの事業の執行予算には、市からの補助金が含まれていました。しかし、将来的にはグループⅢの事業は民間団体(含・KIFA)で実施して、従来の補助金は業務の優先度に応じ事業別に配分をするとされています。KIFA事業は、補助金を受けて運営されているもので、業務の優先度に応じた補助金の配分となった場合、今までのような形での事業継続は難しく、事業・イベントの在り方について新たな発想が要求されるでしょう。

これまでの市の説明を通じて分かってきた、一連の方向付けを要約すると—①多文化共生センターの設置②国際業務の整理と優先付け③事業別の予算(補助金)付与④KIFA自立化の推進—が4本柱です。

このうち当面、検討されなければならない課題は、創設精神をこれからも尊重しつつ、市が掲げている「世界と結びつく国際化の推進」に向けた事業内容の検討、と経済的自立の方策ではないでしょうか。市の施策・方向性も細部についてはほとんど未確定ですので、今後、KIFA内部で議論を重ね、事業の発展に資する方策を行政ともども、模索していかねばならないと考えます。



司会の都さん、ジェンマさん



松本やす子さん



佐藤光代さん



韓暎娟さん



市長はじめ来賓の方々と茂野会長（ハッピー姿）



ジャズの生演奏で盛り上がる

歌でめぐる 2011年 国際交流まつり KIFAパーティを一新 世界の歌とプレゼンテーション

世界の歌とプレゼンテーション——これまでのKIFAパーティを一新して、2011年「国際交流まつり」は11月20日（日）市総合福祉保健センター6階ホールを会場に、世界の音楽を聞きながらKIFA活動を、市民の皆さんに見ていただきました。司会は小山田ジェンマさんと都慶姫さん。



広がる交流の輪

◎異文化交流を通じて知る「幸せの形」

茂野昭会長が例年のパーティから、今年は「世界交流まつり」に趣きを変えましたと、主催者として概要を紹介したあと、来賓を代表して清水聖士市長からあいさつをいただきました。

清水市長は、さきごろ国賓で来日したブータン王国ワンチュク国王夫妻（11月15日～20日離日）との交流が、日本人に印象付けた「しあわせ感」について触れ、市長自身が外交官時代ブータン王国も担当して、何度も訪れたが「国民は皆、純朴で、いつも笑顔で幸せにしている」幸せの満足度の高い国だと紹介し、異文化交流を通じて、そういう「幸せの形が違う」ことを知ること意義のあることだと話し、「KIFAもますます国際交流を盛んにして心の問題でも、交流を広げていただきたい」と期待を寄せました。



人気のニュージーランド大使館報道官

◎世界をめぐる音楽の旅

「世界をめぐる音楽の旅」の出発は、ソプラノ歌手の松本やす子さん、ピアノ秦野萌さんによる「サンタルチア」などでイタリア・フランスを廻りました。続いてトランペット神村英男さん、ベース秦野格さん、ドラム石川周太さん、ピアノは同じく秦野萌さんのジャズ生演奏で「イパネマの娘」などリズムカルにアメリカ・南米をめぐる。後半は中国出身ソプラノ歌手の韓暎娟(カンギョウチェン)さん、ピアノ上田淑枝さんの「夜来香」「アメイジング グレース」などで中国・イタリアを歌いました。旅の終わりはソプラノ歌手佐藤光代さん、藤野麻衣子さんのピアノによる、日本の大人のための童謡集から「七つの子」など3曲、アメリカのミュージカル「踊り明かそう」「サークル オブ ライフ」でフィナーレ。クラシックの生の歌声に来場の市民からの拍手も鳴りやまず「世界をめぐる音楽の旅」の幕が下りました。



ジェンマさんも外国人どうし交流の輪に

◎KIFAの組織と活動の今を紹介するブース

交流会場のブースでは活動の記録が展示されています。研修部会ではニュージーランド紹介。姉妹都市ワカタネ市長のビデオメッセージとともに、大使館のケビン・ハッドフィールド広報官が来場者の質問に答えたり、中国語講座の人たちによる「中国茶の試飲会」と「二胡」の体験会。執行部はKIFAの歴史と組織を公開。交流部会はバスツアー、交流カフェ、世界の家庭料理講習会などをカラー写真で紹介。広報委員会では、広報「KIFA Plaza」の提示とホームページのフロント面を紹介、さらに多言語の非常用カードなどを配布しました。



仮装したキッズたちも楽しそう

青少年委員会は、膨大な写真で活動の様子を掲示し、民族衣装を着たスマイリーキッズ（子ども英会話講座）の生徒たちによるお菓子の販売、スタンプラリーなどを外国人講師たちと楽しみました。（詳細はホームページで）

鎌ヶ谷市 市制40周年
記念KIFA協賛事業

特別講演会「ニュージーランドをもっと知ろう」

前ニュージーランド大使 高橋 利弘さん



ニュージーランドの人たちは、日本が好きなんですと話す。講師の前、ニュージーランド大使の高橋利弘さん

2011年は鎌ヶ谷市の市制施行40周年。鎌ヶ谷市国際交流協会（KIFA）も協賛事業として、研修部会企画の特別講演会「ニュージーランドをもっと知ろう」を、前ニュージーランド大使の高橋利弘さんを講師に迎え1月14日（土）、東部学習センター・レインボーホールで開催しました。姉妹都市・ワカタネの国について、大勢の市民をはじめ、KIFA派遣のロングステイを体験した若い世代も聴講に来ていました。

はじめに高橋さんは、地理的關係から地震国同士の絆ともいえる、地震をめぐる關係について話された。昨年2月に起きたクライストチャーチ地震では、いち早く日本から救援隊を派遣したが、3月11日の東日本大震災のときにはニュージーランドから、日本へ義援金が送られるなど友好的な關係にある。

1923年9月1日の関東大震災では、ニュージーランドからお見舞いと支援を受けた日本は1年後、お礼として練習艦隊を同国へ派遣し港を巡航した。感激した市民たちは首都のウェリントンにある通りを「東京通り」とした。いまも通りの名前が残っている。

講演の本題に入った高橋さんは、ニュージーランドの人たちと付き合う際、知っておいた方がよいこととして、4つのポイントをあげた。

①オーストラリアとニュージーランドの關係

両国は兄弟国で、ニュージーランドから毎年約3万人ほど、職場もあって所得もいい、豊かなオーストラリアへ働きに出ていってしまう。しかし都会で働くのは歳を取ると疲れるので戻ってくる。そういう關係では兄弟国といえる。実際は大違いで、ニュージーランド人は気持ちが謙虚で性格的にも優しいが、オーストラリア人は大國意識を持っている。例えば核兵器に対するスタンスでは違いがある。オーストラリアはウランを生産して売っている。ニュージーランドは核兵器の持ち込み禁止、原子力船の入港も禁止している。エネルギーは水力発電が56%、2番目が自国で生産できる天然ガス、次が石炭となっている。地熱発電も1割くらいある。

捕鯨に対する考えも、オーストラリアが捕鯨船を攻撃するシーシェパードに理解を示しているが、ニュージーランドでカンパ活動をしていても集まらない。

②住みやすさの秘密

日本人が行ってみたい国では、いつも10位以内にランクされていて、旅行者を温かく迎えてくれる。温泉もあり自然に囲まれて、精神的なストレスを感じない国といえる。キリスト教徒が55%くらいを占めているが、意外なことに公式統計で35%くらい無宗教の人がいる。なぜかという「自分の生活に満足していて、精神的ストレスを感じないから、宗教活動を必要としないんだ」とある大司教が話してくれた。その背景には、国の福祉予算

が50%を超している世界的にもトップクラスの、社会福祉制度が充実しているからで、65歳になって定年退職すると、平均賃金の60%の年金が支給される。事故を起しても保障公社が負担してくれる。ただし税金が高い。消費税は15%と高くなっている。税負担率は国民所得の6割になっている。日本は4割以下。

ニュージーランド人は日本が好きで、姉妹都市提携も43くらい。英語を教えに200人の教師も来ている。

③国の在り方として日本の参考になること

まずは平等社会が徹底している。人種平等政策で先住民のマオリの言葉も公用語になっている。正規雇用の割合は15%くらい。国会議員数もマオリが15%を占める。第一は男女平等。首相、国会議長、最高裁判所長官が全て女性だったこともある。国会議員も女性が30%を超えている。同性愛者に対しても偏見が少ないので堂々としている。

行政改革も掛け声だけでなく、徹底的に民営化を進めた。また国際貢献においては、陸海空あわせて1万人の兵隊がいるなか、常に500人くらいPKOへ海外派遣をしている。自由と民主主義を守るための、血と汗を流すというアングロサクソンの伝統が生きている。

④日本にとってニュージーランドとは

いまや世界の大きな動きやパワー、経済力がアジア、太平洋に移りつつある。そのようなときに国柄が似ていて、同じような考えを持ち、日本に好意を持っている国と付き合うのが一番いいわけで、それがまさにニュージーランドだといえる。

最後に高橋さんは、日本はもっと発想を転換して、ニュージーランドの位置的条件を検討すべきだと提言。それはニュージーランドのオークランドを中継点としてみると、世界の距離が変わってくる。日本—ニュージーランド—南米チリ—ロス—東京の距離間は約9000キロ、線で結べばひし形の形になる。シンガポールやドバイが今や、世界の貿易中継地点として発展しているように、ニュージーランドはアジアと南アメリカを結ぶポイントになっている。

鎌ヶ谷市がワカタネと姉妹都市提携をしていることは、非常によかったことではないか。今後ますますの発展を期待します。（講演の詳細についてはホームページをご覧ください）



小学1・2年生のクラスA



小学3・4年生のクラスB



小学5・6年生のクラスC

子ども英会話教室（スマイリーキッズ）閉講式 「Hello！」で始まり「Thank you！」でお別れ

2011年度・スマイリーキッズ（子ども英会話講座）の閉講式が、2012年2月11日（土）に中央公民館で行われました。先生の質問にはにこにこ、ドキドキしたりしていた子どもたちも、今ではすっかり慣れて、先生やスタッフに「Hello！」と発しながら集まってきました。インフルエンザが心配されましたが、28人の受講生と保護者など総勢62人が参加しました。

保護者とスタッフが見守るなか、講師のカイル・マレン先生、クリストファー・ミルズ先生から、一人ひとりに特製の修了証が手渡されました。修了証が手渡されるたびに、会場から拍手が送られます。

修了証授与の後は、3グループのチームに分かれて、Pictionary Gameで得点競争です。各チームから一人が前に出て、5秒間で絵を黒板に書き、チームのメンバーは何を描いたか英語で答えます。子どもたちが考えた絵はapple、car、cat、strawberry、bare、cherry、rabbitなどでした。

ゲームの後は10カ月間の思い出のシーン。授業風景、イベント参加の様子がスクリーンに映し出されます。その間に、カイル先生、クリストファー先生が子どもたち

と言葉を交わしながら、ご褒美のステッカーを渡していきます。

先生から子どもたちへのメッセージ

カイル先生——英語の勉強は楽しむ、頑張る、楽しむ、それを繰り返し続けてください。

クリストファー先生——これからも楽しむことと頑張ることを決して止めないで、英語を身につけてください。

今年度でスマイリーキッズを卒業する6年生3人が代表して、先生へ感謝の意を込め、花束を渡しました。

会場の保護者を含め全員で、先生への「Thank you!」で閉講式を締めくくりました。



ありがとうの花束贈呈

スマイリーキッズ クリスマス特別授業 サンタ先生と楽しみました

先生サンタがやってきた——スマイリーキッズ（子ども英会話講座）では、昨年12月17日（日）に3クラス合同で、クリスマス



お楽しみ講座を行いました。カイル・マレン先生、クリストファー・ミルズ先生、レイチェル・バイロン先生による合同授業は初めてとあって、受講生だけでなく先生も、いつもと違う雰囲気に少し緊張気味の様子。

レイチェル先生が「おいサンタさん」と呼んで、サンタクロースに変身したカイル先生とクリストファー先生のサンタクロースが登場。子どもたちの視線が一斉にサンタクロースに注がれ、嬉しそうです。

最初はROCK・PAPER・SCISSORSゲーム。「ELF」「SNOW MAN」「REINDEER」「SANTA CLAUS」の絵が示され、子どもたちは「ELFって何？」ELFはサンタクロースと同じように、小さな赤い帽子と上着をきています。カイル先生が日本語を交えてサンタクロースを手伝う妖精だと、生徒たちに教えました。

*笑顔でMerry Christmas！

「ELF」「SNOWMAN」「REINDEER」「SANTA CLAUS」を表すジェスチャーも習う。最初はELFからはじまり、ROCK・PAPER・SCISSORSとじゃんけんに勝つたびに「SNOW MAN」「REINDEER」「SANTA CLAUS」と変身していく、じゃんけんに勝ち続けて「SANTA CLAUS」に変身できたらゴールです。じゃんけんに負けたらELFに逆戻り。但し同じキャラクターとしか、じゃんけんができません。最初は戸惑いながらもゲームが始まるとあちらこちらで歓声があがります。

ゲームで盛り上がった後は、クリスマスソングを歌います。日本でもおなじみの「We wish you a merry Christmas」と「Jingle Bells」を英語で歌う。先生の発音を確認しながら繰り返し歌を覚えました。

歌でクールダウンした後は、2チームに分かれてWhisper Game対決。サンタクロースがチームの最初のメンバーにクリスマスにまつわる単語を囁き、次の人へと単語を伝えていって、最後の人が答えを黒板に書いて速さと正確さを競います。

ゲームを終えるとレイチェル先生が大きな袋を発見！袋の中はみんなへのクリスマスプレゼント。サンタクロースから一人ひとりにクリスマスプレゼントが手渡されました。全員笑顔でMerry Christmas！の大合唱で授業が終わりました。

「セルビアの文化と暮らしを知る」

交流カフェ

私たちはセルビアという国を、どのように知っているでしょうか——南東欧・世界の火薬庫とも言われた、バルカン半島の中央部に位置する国ですね。古くは「セルビア青年が撃った一発から第一次世界大戦が始まった」とか、新しくは1990年代後半の流血の「コソボ紛争」など報道によって知っています。これまで交流部会企画の「交流カフェ」はアジア諸国が選ばれていましたが今回、ヨーロッパとオリエント文明の十字路とも言われる「セルビアの文化と暮らしを知る交流カフェ」を2011年10月16日（日）まなびいプラザ学習室を会場に開催しました。

二人の女性講師（ベオグラード大学卒業）は正しい日本語で歴史・民族・文化・観光情報・生活や暮らしなどを紹介されました。4年半の留学体験をされた千早さんは、大学生活、セルビア女性との出会いと結婚式の様子を話しました。セルビアをめぐる歴史や事件は多くの文献やWebでも知ることができるので、ここでは「歴史を実際に体験」された話を中心に編集しました。



- * 3人の講師を紹介（左から）
- ・ティヤナ・ナガトさん（セルビア大使秘書）
 - ・サニャ・トリブコヴィッチさん（ライター・通訳）
 - ・小柳津千早さん（留学、セルビア女性と結婚）
 - ・（円内）市内在住のセルビア人女性、ニコリッチ細中ネーナさん（神田外語大講師、日本人男性と結婚）



・セルビア共和国▷面積・8万8,361*²㎡▷人口・約750万人▷首都・ベオグラード▷言語・セルビア語▷文字・キリル、ラテン文字▷通貨・ディナール

*経済制裁より文化制裁が伝わった

第二次世界大戦後、チトー大統領のもとにまとまっていたかに見えた、ユーゴスラビア社会主義連邦共和国がチトー没後、各国の相次ぐ独立による連邦の解体から、現在のセルビア共和国成立にいたる過程の中で、特にセルビアは1990年代後半のコソボ紛争を経験し、国民には深い傷跡を残しています。その当時に母国において青春期（高校、大学）を過ごした二人の講師は、参加者からのつらい質問にも率直に答えられました。

Q：コソボ紛争では当時、報道されたことによると、あれだけの悲惨な流血もあったが、現在でも……？

A：セルビアの場合は実際に紛争はなかったけれど、1999年に3か月にわたってNATO軍から爆撃を受けました。また国連から、経済制裁や文化制裁を掛けられました。経済制裁は確かに苦しかったけれど、個人的には、経済制裁よりも、文化制裁のほうがつらい経験でした。当時、大学生で最も世界の情報を知るべきときに、外から情報が入ってこなかった。文化制裁というのは他の国との交流ができない。国際映画祭に行きたくても行けない。海外からのお客さんも来られない。一方、そういう時代だったからこそ、普段いつも日常の生活に追われて、流されてしまうことよりも、自分にとって良いことではなかったかと思う。

起きたことについては、幾つかのカテゴリーがあって、そこにいた当事者にはどうであったか。遠くにいて見ていた者にどう見えていたか。私は当事者なんですけど、もともとこの地域にさまざまな民族、さまざまな宗教の人たちが、何世紀もの間、一緒に住んでいて、お互いが違うということを認識して、その上で付き合っているわけです。そういう人たちにとって「違うことは」新しいことではないわけです。ただ政治や世界のパワー力に

動かされることになってしまっただけです。

90年代の出来事に関しては、一般の人が巻き込まれてしまっただけと、当事者として受け止めています。残念なことですが、そこにはいろんな思いがあります。単純なことは言えないし、どちらが正しい、正しくないの判断は難しい。巻き込まれてしまった人たちは、それぞれが複雑な思いでいたと思います。20年も経った今もそれを言葉にできないで、沈黙してしまっている。本当のところは当事者でなければ分からないことです。

*セルビアの教育について

義務教育は7歳から始まり、小学校4年、中学校4年、高校4年で12年間。都市部では学校の数が少ないので、2部制授業を行っている。午前は7時から12時半、午後は1時30分から5時30分。基本的に高校まで授業料は無料で、教材費は自己負担となっている。

1808年に創立されたベオグラード大学には哲学、言語学、教育学、世界文学、日本語学科などがあり、幅広い教育が受けられる。主要都市には5つの総合大学があり、単科大学は200校くらいある。大学は卒業するのが難しい。成績優良者は授業料無料だが、成績不良で落第すると有料になる。私たち2人は無料でした。（拍手）

セルビアは外国語教育に力を入れている。小学5年からセルビア語+2カ国語を奨励、成績上位者は英語を学ぶ。他の子にはロシア語を教える、高校になるとさらに増え、理数科系に進む子はドイツ語も学ぶ。

Q：日本人は高校・大学で計7年間も英語を学んで話せない、ということが有名だが、どこに欠陥？

A：（ネーナ先生の出番）生活に役立つ英語とアカデミックな英語を分けなければいけない。人生につながる教え方をしたら良い。（この他の文化情報など詳しい内容は、KIFAホームページをご覧ください。）

「他己紹介」と「福笑い」ゲームで多国籍交流

日本語講座 特別学習会

私を紹介して下さい こんな顔ができました

日本語講座の特別学習会が昨年(2011年)の12月14日、中央公民館の学習室で行われました。前半は、各レベル別の個別グループに分かれて行う通常授業でした。後半の約1時間は全員が集合し、懇親会を兼ねた特別学習会となりました。

●「他己紹介」ゲーム

この日の教室にはアメリカ、イギリス、中国、韓国、オランダの生徒が来ていました。特別学習会のスタートは「他己紹介」ゲームです。まず学習者とボランティアが二人一組でペアになりました。ペア同士がお互いに自己紹介で情報交換します。5分間ほどの短い打ち合わせタイムです。楽しそうな2人組や、筆記したり質問している学習者もいます。皆さん、相手からどんな情報が集められたでしょうか。本番の「他己紹介」では、ペアの相手を全員に紹介しなければなりません。

さあ、全員の前での「他己紹介」タイムになりました。自分のことをどんなふうに、ペアの相手が紹介するかドキドキです。ボランティアのなかには、「えっ、私ってそんな人」なんて、思いもよらない紹介にびっくりする人もいました。各ペアで特徴があり大いに盛り上がり、一層の相互理解が深まりました。



こんな感じかな



これでいいかな



えっ、こんなの

●美形の「おかめ」「ひょっこ」が

歓談を楽しんだ後は、日本古来の遊び「福笑い」です。

日本手拭で目を覆い「おかめ」「ひょっこ」に目、鼻、口、眉、を入れていきます。慎重に目や鼻、口を上へやったり下へやったり、試行錯誤をしながら部品を置きます。はい、出来上がりました。

手拭を外してもらって、あまりの酷い顔にびっくり仰天したり、とびきり美人の「おかめ」やハンサムな「ひょっこ」ができあがりました。

いろいろな国からの学習者も、ボランティアも楽しい国際交流の一夜を過ごしました。



日本語学習の模様

多面的に柔軟な考えで見よう 日常を語る「英会話サロン」



2011年度2回目の「英会話サロン」(研修部会主催)が昨年(2011年)の11月13日(日)に、市総合福祉保健センター6階の大会議室で開かれました。

*5分間スピーチ

サロンでお馴染みのカナダのデレック・スミスさんのテーマは「Crossroad(十字路)」——もしもあなたの将来に別の選択肢があったらどうしますか。人生を考えるターニングポイントがありましたか。(写真下)



アメリカ人の本間エリーさんのテーマは「バイリンガル家族の子育て」——子どもさんも、日本人のご主人も、エリーさんと結婚してから英語が上達されたそうです。(写真上)

若いALT(Assistant Language Teacher)のスコットランド人、カイル・マレンさんのテーマは「国際印象」——話や文献などから受けた国の印象と、現地で感じた印象が違うことがよくある。何事もよく知るには多面的に見た方が良いというお話です。(写真中)

*3テーブルに分かれてフリートーク

10分間のコーヒープレイクの後、三つのテーブルに分かれ、テーマに沿ってフリートークの開始です。

エリーさんは、小学生と幼児の二人のお子さんは、英語と日本語のバイリンガルで育てているが、言語を押し付けたことはない。子どもたちは、環境のなかで自然にどちらも話せるようになった。ストレスを与えず育てているのが、良い結果につながっていると話された。

マレンさんは、人や物事をステレオタイプ(固定概念)で見ると、本当の理解ができないのではないかと。お国柄、風俗でも、人そのものでも、一面的な見方をしないで、多面的に柔軟な考えで見たと話す。

参加者にも、一方的な見方や接し方をしていると、裏切られる原因にもなると、話す人も人もいました。良く経験することですね。

デレックさんは、お嬢さんが新しい趣味を持ったことで、将来への道幅が広がったようだという例を話し、参加者にも広い視野で新しいことに挑戦し、これからの人生を少しずつ変化させるのも良いのではないかと、問いかけました。

「中国の創作家庭料理」から中国・日本料理の融合を学ぶ

KIFA 外国家庭料理講習会

KIFA交流部会主催の「外国家庭料理講習会」が2月12日（日曜日）10時から、東初富公民館で開催されました。今回の料理講習会は松戸市在住、台湾出身の宋如芳（ソン ルファン）先生を講師に招いて、「中国の創作家庭料理」の調理実習と味を楽しんでもらいました。

* 宋先生による調理実演説明 *

今回の料理のメニューは白玉糖酢丸子（肉団子の甘酢あんかけ）、秋刀魚の香味漬け、豆腐のあんかけスープの3品です。調理実習者全員が、調理テーブルに置かれた材料を前に宋先生を囲み、調理の進め方と要領を教わりました。先生は調理に負けず劣らず日本語の口調も達者で、実習者は耳を立て食い入る様子に見つめていました。



講師の宋如芳さん
料理の先生をなさっています



* 調理場で *

各5～6名の実習者が一つのグループとなり、4台の調理テーブルで調理しています。レシピを見ながら一つ一つ材料を切る人、砂糖の量（大きじ2杯）を先生に確認しながら慎重に鍋に加える人、“タレの量”を少なくしても味が十分に出ることを教わり感心する人、自分達のグループが作った料理が一番上手だと自慢する人、そして一番先に料理完了した要領の良いグループは“バンザイ、万歳”。各グループの大皿に盛られた料理とスープ鍋がパーティ会場のそれぞれのテーブルに運び並べられました。

* パーティ会場にて *

いよいよパーティの開始。今回の料理講習会担当の交流部 関矢さんから宋先生への御礼とねぎらいの後、先生の挨拶です。“こういう（料理講習会の）体験の場を与えてくれて有難うございました。今回で3,500回を越え3,501回目の料理講習会となります（*記事担当の勝手な見方：「3,500という数字は非常に多くの」と言う意味の先生の『茶目っ気な表現法』と思えますが）。そして1回1回の講習会を大切にきて来ました。私はそれらの講習会を通して生徒の調理法と料理の良い所を学び、少しずつ旨い料理と色々な料理が作れるようになったと感謝しています。どうぞ皆さん、召し上がって下さい”。宋先生の28年にわたる料理の勉強、講習会での生徒へ



白玉糖酢丸子

秋刀魚の香味漬け

豆腐のあんかけスープ
(それぞれおわんによそった)



ご飯（炊き上がり）

いちご、みかん

麻花（マファン）

の感謝の気持ちと謙虚さにパーティ会場の全員が大きな拍手を贈りました。

パーティ会場では皆が舌鼓を打ち料理を楽しんでいます。メニューの3品の他、デザート“みかん”と“いちご”、先生からの特別差し入れの麻花（マファン；先生が2時間かけて作った中国のお菓子）、レーズン（干しぶどう）とチョコレートが配られました。先生得意の中国茶のサービスも一人一人にありました。

そして再び、先生からのお話が続きしました。“今回の料理メニューは上海料理や四川料理を元に、私なりにアレンジし創作したものです。中国での魚料理では、鯉・なまず・イシモチ等を使いますが、今回は日本でよく食べられる秋刀魚と、八角・ねぎ・生姜の材料を加え日本の人が食べ易いように味付けしました。いわゆる、中国料理と日本料理の合作であり融合です。”



話は次々と続きますので、あとは「何のお話か」だけを紹介します。

* 義理チョコ（もらえばうれしい） * 中国での正月料理（魚料理、雉料理） * 春到（シュンタウ；春が来る。“春”を逆さに書くと同じ意味） * 福到（フータウ；福が来る。“福”を逆さに書くと同じ意味） * 台湾と日本（岩手県）の結婚披露宴の違い（席順が逆） * 東日本大震災（ご主人の実家；岩手県陸前高田の被災と食べ物見舞い） * 赤色は福・魔よけ * 餃子料理（傲慢な人との出会い）

2011年度語学講座閉講式

出会いと語学の楽しさ学ぶ

【英語A】

新人先生の熱心さが受講生に響く

①Frances Mejias (フランシス・メヒアス) 先生 (アメリカ出身) 「温かく、友好的に接して下さった受講生の皆さんに感謝します。私は日本へ来たばかりの新人講師で、大勢の大人のみなさんを教えることに、とても不安になり、色々なことを心配しました。けれども生徒の皆さんを知るにつれて気持ちが楽になり、このクラスを教えることが楽しくなりました。皆さんを教える機会を得て、楽しい時間を持つことができ幸せでした。」

②元気に皆勤でき、楽しく学ぶことができました。3分間スピーチが一番の思い出です (星野)。先生が一生懸命教えて下さる姿勢に励まされ、楽しく意欲的に学習できました (関寺)。

③You are my sunshine、ドレミの歌、聖者の行進。速い曲に歌詞が追いつかない人もいて微笑ましかったです。

【中国語】 半数近くが皆勤賞、日々新たな発見

①胡丁毅 (フー・ディンイー) 先生「今年度は新しい人が、たくさん入って来られましたが、とても学習意欲があって、教えるのが楽しかったです。習った単語やフレーズを使って、興味のあること、好きなこと、感じたこと、趣味などを1分間で発表してもらいました。皆さん真剣でびっくりするほど中国語が上達されました。」

②中国語を受講し始めてから大分経ちますが、新しい仲間と新たな気持ちで一緒に学習するせいか、毎年新しい出会いと発見に喜びを感じています。今年度もそうでした。来年度も続けるぞ (河村)。3回目の受講です。教え上手な先生の下で勉強していながら、なかなか上達せず、申し訳なく思っています。授業は笑いのなかで進



写真は左から

胡丁毅、Frances Mejias、金英美先生です。

められ、ときにはお茶会などにもなりません (吉谷)。

③「授業風景の再現」の芝居では男性陣はトイレに関わる会話、女性陣は化粧品に関わる会話と、興味の対比が面白く思いました。二胡の生演奏付きでの歌では中国に精通した技がうかがえました。

【韓国語】 いつも楽しく賑やかに盛り上がり

①金英美 (キム・ヨンミ) 先生「リピーターが初心者を手助けするなど、受講生の皆さんの優しさと、疑問に思ったことは恥ずかしながら、積極的に質問する熱心さが嬉しかったです。来年度の授業には韓国の歴史、文化も、もっと取り入れていきたいと思います。」

②韓国語が全く初めての入門者と、6~7年の学習者の混合でスタートしましたが、とても楽しい雰囲気なかで学習できました。ハングルの読み方やあいさつからスタートして、テキストに沿いながらも入門者にもベテラン(?)にも気を遣って、授業を進めて下さった先生の苦労は、大変なものだったと思います。テキストにとどまらず韓国の習慣や食べ物、ドラマや旅行の話など生の最新情報を話して頂いたり「韓国」に触れられる楽しいひと時でした。カムサハムニダ ット マンナヨ!・ありがとうございました。また お会いしましょう (大和田、廣井、阿部、高橋、上田)。

③言葉覚えの子どもを振り付きで1曲。2曲目は今年度講座半ばで急逝した受講生を偲んで「千の風になって」のハングル語版。最後は韓国の演歌で締めくくりました。明るいポップスのような乗りの良い曲でした。

お知らせ

◆2011年度KIFA総会のお知らせ

- ・日時：5月20日(日) 10:00~
- ・会場：総合福祉保健センター6階大会議室
- ・会員各位のご出席をお願い致します。

◆スマイリーキッズ (子供英会話講座)

5月26日(土) 開講 全25回 まなびいプラザ
2月上旬閉講式予定

◆2012年度語学研修講座

- | | | | |
|-------|-----|--------------------|---------|
| 英会話 | 水曜日 | 13:30~15:00 | 中央公民館 |
| 中国語 | 火曜日 | 入門 9:30~ 初級 10:50~ | 鎌ヶ谷市図書館 |
| ハングル語 | 金曜日 | 入門 9:30~ 初級 10:50~ | 南部公民館 |

講座の詳細は事務局にお問い合わせいただくか、KIFAホームページをご覧ください。

編集後記

1面で報告したように、「国際交流」の概念が「多文化共生」という方向に大きく変わろうとしている。KIFA4部会のボランティア・スタッフ合わせて約30名、先輩たちがエネルギーと時間を提供して営々と紡いできた「国際交流」、これがどうなっていくのだろうかという漠然とした不安感がある。26年度の「多文化共生センター」の設置に向けて、事態は既に動き出している。

今後KIFAが為すべきことは、創設精神を尊重しつつ、市が言う「国際化の推進」にも寄与する団体の在り方と、国際交流活動の両立を図って行くこと。それには執行部を中心にして、ボランティア・スタッフならびに会員が、共に手を携えて取り組んでいくことではないだろうか。

いずれにしても、24年間「国際交流」を担ってきた、鎌ヶ谷市国際交流協会のプライドを保った上で、今後取り組んでいきたいものだ。(T.S.)